

株主の皆様へ

第134期 中間報告書

平成11年4月1日～平成11年9月30日



ごあいさつ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社第134期上半期（平成11年4月1日から平成11年9月30日まで）を経過いたしましたので、ここに当上半期の営業の概況をご報告申し上げます。



平成11年12月10日

日本板硝子株式会社

社長 **大原洋三**

営業の概況

当上半期における我が国経済は、設備投資の低迷や雇用不安はありましたものの、総合経済対策や金融安定化対策の効果が出始め、景気はわずかながら回復の兆しが見え始めてまいりました。

当社関連需要につきましては、情報電子関連需要や住宅関連需要は比較的好調に推移いたしました。ビルなどの非住宅関連需要や自動車関連需要は引き続き低水準で推移いたしました。

このような状況の下、当社は情報電子分野や複層ガラスなど成長分野での拡販に努めるとともに、既存のガラス分野でのコスト削減を推進してまいりましたが、売上高は前年同期比1.3%増の932億27百万円、経常利益は2億43百万円、当期利益は1億29百万円となりました。

当期の中間配当につきましては、当期の業績見通しなど諸般の事情を検討いたしました結果、引き続き見送らせていただくことといたしました。株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、何とぞ事情ご賢察の上、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

部門別の状況は次のとおりであります。

板ガラス部門では、建築用につきましては、

ビル用の需要減少による影響はありましたものの、複層ガラスや真空ガラスなど高機能ガラスが売上数量を伸ばし、売上高は前年同期を若干上回りました。自動車用につきましては、高付加価値ガラスの拡販に努めましたが、国内自動車販売の低迷と競争激化により、売上高は前年同期を下回りました。この結果、板ガラス部門全体の売上高は、前年同期比 0.4 % 減の 483 億 70 百万円となりました。

その他部門では、サッシなど建材製品の売上高は、ビル用の低迷から前年同期を下回りました。ガラス繊維製品の売上高は、輸出の減少により前年同期を下回りました。光製品の売上高は、北米の通信向けレンズは伸びましたが、事務機器分野の競争激化と円高の影響により前年同期をわずかに下回りました。ファインガラス製品の売上高は、携帯電話用など中小型液晶需要の増加により前年同期を上回りました。ガラス磁気ディスクの売上高は、ノートパソコン向け需要の増加により前年同期を上回りました。以上の結果、その他部門全体の売上高は、前年同期比 3.3 % 増の 448 億 56 百万円となりました。

下半期の見通しにつきましては、景気は緩やかな回復基調に入っているものと思われませんが、円高や原油高騰などマイナス要因もあり、自立的な回復へ移行するための正念場を迎えると予

想されます。当社関連の建築・自動車分野では、先行きの不透明感がぬぐえない状況が続くものと考えられます。

当社は、中期計画「WIN21」の達成を目指して、本年実施したカンパニー制、執行役員制の導入など経営の効率化を進めるとともに、建築・自動車分野を中心に徹底したコスト削減を推進し、成長分野へ経営資源を重点的に投入してまいります。具体的には、建築・自動車分野では、製造・販売・物流コストの削減に努めるとともに、高機能ガラスの拡販に努力いたします。情報電子分野では、光製品、ファインガラス製品、ガラス磁気ディスクの需要拡大に対応した国内外の生産体制確立に努めるとともに新商品の開発に注力いたします。また、コンピューターの「西暦2000年問題」につきましては、本年9月末までにシステム対応と危機管理計画の最終確認を完了し、現在、社員に対する再確認の徹底と実践的な教育指導を行っております。

なお、本年10月、相模原工場の液晶用ガラス成膜ラインで火災が発生いたしました。海外生産拠点等の協力を得て売上高への影響を最小限にとどめております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

貸借対照表

平成11年9月30日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額
資 産 の 部	326,014
流 動 資 産	122,293
現 金 及 び 預 金	9,416
受 取 手 形	14,483
売 掛 金	43,515
有 価 証 券	16,359
自 己 株 式	1
製 品 及 び 商 品	15,344
仕 掛 品	4,701
原 材 料 及 び 貯 蔵 品	5,262
そ の 他 の 流 動 資 産	16,887
貸 倒 引 当 金	3,678
固 定 資 産	203,720
有 形 固 定 資 産	97,641
建 物	36,926
構 築 物	2,755
機 械 装 置	33,561
車 輜 運 搬 具	105
工 具 器 具 備 品	2,325
土 地	12,620
建 設 仮 勘 定	9,346
無 形 固 定 資 産	3,300
施 設 利 用 権 等	3,300
投 資 等	102,778
投 資 有 価 証 券	34,327
子 会 社 株 式	63,844
長 期 貸 付 金	727
長 期 前 払 費 用	1,081
そ の 他 の 投 資	2,942
貸 倒 引 当 金	145
合 計	326,014

(単位：百万円)

科 目	金 額
負債の部	178,537
流動負債	91,152
支 払 手 形	746
買 掛 金	32,584
短 期 借 入 金	30,185
一 年 内 償 還 社 債	10,000
未 払 金	3,388
未 払 消 費 税 等	244
未 払 費 用	4,893
預 り 金	5,426
賞 与 引 当 金	2,461
そ の 他 の 流 動 負 債	1,222
固定負債	87,385
社 債	52,370
長 期 借 入 金	12,667
退 職 給 与 引 当 金	4,737
修 繕 引 当 金	15,538
そ の 他 の 固 定 負 債	2,072
資本の部	147,476
資本金	40,823
法定準備金	50,152
資 本 準 備 金	44,171
利 益 準 備 金	5,980
剰余金	56,500
特 別 償 却 準 備 金	72
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	5,148
特 別 積 立 金	44,977
中 間 未 処 分 利 益	6,302
(中 間 利 益)	(129)
合 計	326,014

損益計算書

自 平成11年4月1日
至 平成11年9月30日

経常損益の部		百万円
営業損益の部		
営業収益		93,227
売上高		93,227
営業費用		91,228
売上原価		75,504
販売費及び一般管理費		15,723
営業利益		1,998
営業外損益の部		
営業外収益		3,166
受取利息及び配当金		1,176
雑収益		1,989
営業外費用		4,920
支払利息及び割引料		1,211
雑損失		3,709
経常利益		243
特別損益の部		
特別利益		226
固定資産売却益		158
投資有価証券売却益		68
特別損失		318
固定資産除却損		169
投資有価証券評価損		148
税引前中間利益		152
法人税、住民税及び事業税		23
中間利益		129
前期繰越利益		1,513
合併により引き継いだ 未処分利益		4,659
中間未処分利益		6,302

貸借対照表及び損益計算書の注記事項

1. 貸借対照表の注記

- (1) 子会社に対する短期金銭債権..... 27,195百万円
子会社に対する短期金銭債務..... 14,529百万円
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 166,200百万円
- (3) 重要な外貨建資産負債
投資有価証券.....15,842百万円
(120,482千米ドル、 55,749千マレーシアドル 他)
子会社株式.....51,855百万円
(288,280千米ドル、 130,000千シンガポールドル 他)
貸付金..... 99百万円
(741千米ドル、 4,900千パキスタンルピー)
- (4) 担保に供している資産
有形固定資産.....8,443百万円
投資有価証券.....3百万円
(有形固定資産のうち8,352百万円は、平成11年4月1日に日本硝子繊維株式会社を吸収合併したことによる増加分である。)
- (5) 保証債務.....53,793百万円
- (6) 退職給与引当金には、役員退職慰労引当金944百万円が含まれている。役員退職慰労引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (7) 修繕引当金は商法第287条ノ2の引当金である。
- (8) 1株当たりの中間利益.....29銭

2. 損益計算書の注記

- (1) 子会社に対する売上高.....23,001百万円
- (2) 子会社からの仕入高.....27,389百万円
- (3) 子会社との営業取引以外の取引高 4,167百万円

(注)この中間報告書では、百万円単位の金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社の概要

平成11年9月30日現在

設立	大正7年11月22日
資本金	40,823,392,560円
発行済株式総数	439,609,902株
1単位の株式の数	1,000株
株主数	43,093名

営業品目

(板ガラス部門)

フロート板ガラス	網入線入磨板ガラス
熱線吸収板ガラス	熱線反射ガラス
高性能熱線反射ガラス	強化ガラス
倍強度ガラス	合わせガラス
複層ガラス	真空ガラス
防火ガラス	型板ガラス
網入線入型板ガラス	鏡
装飾ガラス等	

(その他部門)

サッシ及び建材
店装材
ガラス繊維及び関連製品
光製品(セルフオックレンズアレイ、セルフオックマイクロレンズ、光部品等)
ファインガラス製品(超薄板、透明電導ガラス等)
産業用ガラス製品
LCD製品
ガラス磁気ディスク等

取締役及び監査役

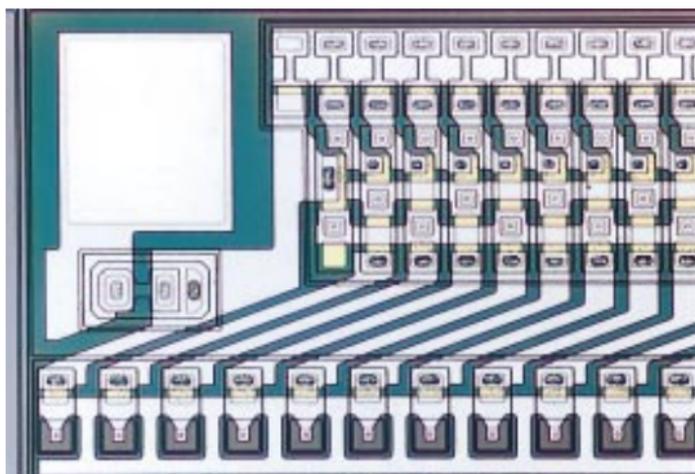
平成11年11月12日現在

日本板硝子株式会社

取締役会長	松	村	實
社長	出	原	洋三
副社長	内	村	謙
専務取締役	石	川	靖也
専務取締役	相	楽	敏夫
専務取締役	庄	野	晋吉
常務取締役	野	原	俊夫
常務取締役	阿	部	友昭
常務取締役	真	鍋	征一郎
常務取締役	木	戸	雄二
常勤監査役	増	池	徹彌
常勤監査役	川	村	隆男
監査役	北	方	貞男
監査役	加	々美	信光

TOPICS

トピックス



光半導体の事業化

当社は、複写機やプリンターのプリントヘッドに用いられる光半導体の開発に成功しました。

この光半導体は、世界で初めてLED（発光ダイオード）素子とその駆動回路を同一チップ上に集積したもので、LEDプリントヘッドのコスト削減に効果が期待されます。

既に茨城県つくば市に生産設備の設置を完了して事業化をスタートしており、3年後には50億円の売上を計画しています。



遮熱型スペーシアの発売 とマンションへの採用

当社は、従来の真空ガラス「スペーシア」に加えて、日射熱の進入をカットする遮熱性能と紫外線カット性能を付加した「スペーシアDX」を本年6月に発売しました。

「スペーシアDX」は、夏の強い日差しや熱気が室内に進入するのを抑え、室内の冷気を外に逃さず、エアコンの冷房効果を高める画期的なガラスです。また、防音効果も優れていることから、従来の高断熱タイプとともに今秋以降、新築マンションへの採用が増加しています。

株主メモ

決 算 期

毎年 3月31日

定時株主総会

毎年 6月

株主確定基準日

定時株主総会・利益配当金 3月31日

中間配当金 9月30日

そのほか必要あるときはあらかじめ
公告した一定の日

名義書換代理人

住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

住友信託銀行株式会社

証券代行部

東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

(郵便物送付・電話お問合せ先)

住友信託銀行株式会社

証券代行部

東京都府中市日鋼町1番10

〒183 8701

電話 東京(府中)(042)351 2211

大阪(千里)(06)6833 4700

同 取 次 所

住友信託銀行株式会社

本店及び全国各支店

公告掲載新聞名

日本経済新聞

会 計 監 査 人

神戸市中央区明石町31番地の1 住友生命神戸ビル

センチュリー監査法人

表紙の写真：液晶パネル用ガラス基板

⊙ NIPPON SHEET GLASS CO., LTD.